

## 川崎市川崎区市民提案型協働事業審査委員会 (令和7年度いきいき提案事業報告会) 摘録

日時：令和8年2月3日（水）9時～12時

場所：川崎区役所10階第1・2会議室

出席者（敬称略）

委員：佐谷和江委員長、鈴木奈穂美委員、長田英史委員、石井芳和委員

実施団体：いきがい工房さらら、NPO 法人姿勢教育の孝心会、川崎あそび宿、一般社団法人グローバル文化協働支援センター、株式会社 EMISORA

所管課：危機管理担当、企画課、地域振興課、生涯学習支援課、地域ケア推進課

事務局：企画課

傍聴：8名

### 1 開会

- ・事務局から、資料確認、会議の成立を確認

### 2 令和7年度提案事業の評価

#### (1) 委員会の運営について

- ・事務局から、会議の運営方法を確認

#### (2) 進行方法について

- ・事務局から、進行方法などについて説明

#### (3) 実施団体による事業報告（10分/団体）

|      |                               |
|------|-------------------------------|
| 報告1  | ～こどもと大人の自分らしく生きるを応援する～ らしく Ru |
| 実施団体 | 株式会社 EMISORA                  |
| 所管課  | 地域ケア推進課、地域支援課、保育所等・地域連携担当     |

#### 質疑等

長田委員 終了生が講師になるという循環型は優れたモデルであると思う。クオリティをキープするのに工夫していることはあるか。

実施団体 初めてやる人がほとんどだが、修了生と丁寧にも度々個別の相談で対応している。また1年に1回は発表の機会をつくり。気づきや新たな発見のきっかけとしている。

鈴木委員 始めるための入口がハードだと感じる。

実施団体 申し込み前に内容を伝え意思確認をするなど、入会するにあたり準備をしっかりとしている。

- 鈴木委員 もともと本気の人が申し込んでいることか  
 実施団体 その通り  
 所管課 報告のとおり、苦勞されながら取り組まれていると思う。引き続き取り込んでいくと思うので、連携できることがあれば連携したい。
- 佐谷委員長 3年経ち、資金面も含めこれからの展望はあるか。  
 実施団体 3年前は知り合いが全然いなかったが、地域の人やいろんな人とのつながりができた。資金面に関しては企業や団体から一緒にやりたい、スポンサーになりたいという声が上がっている。  
 イベントの開催が目的ではなく、子どものことを考え、イベントを企画していきたい。
- 石井委員 3年間かけて幅広い応援が出来ていると思う。子育てに関して母親だけではなく、父親のつながりも作れていると思う。まちびらき隊との連携など、横のつながりもできている。子育て支援のノウハウ活かしてさらなるステップアップをして欲しい。

|      |               |
|------|---------------|
| 報告 2 | 子どもまちびらき大作戦   |
| 実施団体 | NPO法人姿勢教育の孝心会 |
| 所管課  | 企画課           |

#### 質疑等

- 石井委員 現在参加している子どもたちの人数及び連携している企業の数ほどの程度いるのか。今後のその展望の部分を進めていく上での、自分たちの体制を教えてください。
- 実施団体 組織は隊員（小学生）と隊長（中学生以上）で分かれている。今年度から隊長の中で部署があり、企画部、人事部、広報部、外部連携部がありすべてを束ねる統括代表もいる。  
 なお、毎週参加している子どもたちの人数は10名程、イベント時は多数参加。インスタグラムに力を入れており、企業数はその都度イベントに併せて学生がアポイントを取っているので、正確な把握はできていない。
- 鈴木委員 事業は小学生から継続的に、大学生や社会人まで関われるというのがとても魅力的である。AIの動画生成など、最先端の取り組みも進めており、興味深い。なお、説明の中で世界へという言葉があったが、世界に向けた取り組みは何かしているか。
- 実施団体 まずはインスタグラムをはじめとしたSNSの運用。英語を使ったイベントの実施、神奈川国際ファンクラブとイベント実施の検討をしている。  
 また、AIを教えてくれている先生が世界的に活躍している方なので、それをきっかけに視野が広がっている。

所管課 子ども達が集まって様々な意見が出ると思う。採用できない意見もあると思うが、どうしているか。

実施団体 実現不可能な意見もいくつか出てくるが、他の意見と組み合わせてできるだけ多くの案を採用できるようにしている。

所管課 子どもの内から地域に目を向ける事はとてもいい活動、継続してもらいたい。

長田委員 川崎 SDG s 大賞受賞おめでとうございます。今回報告を聴いて、表面的な話ではなく、経験を基に話されていると感じたので生の声をたくさん発信してほしい。

|      |        |
|------|--------|
| 報告 3 | 川崎あそび宿 |
| 実施団体 | 川崎あそび宿 |
| 所管課  | 地域振興課  |

#### 質疑等

石井委員 川崎区の歴史を生かしたまちづくりにコミットしていて非常に良い取り組みであると感じた。2年目ということもありレベルも上がっている。初年度と比べ参加者は増えているか。

実施団体 チラシの数は増やしていないが、ラインアプリなどの活用で、参加者は増えている。

石井委員 外国籍の人も来てもらっていると思う。引き続き工夫を凝らしながら大事に続けて欲しい。

長田委員 参加者が増えると運営サイドの負担が増えるが、どのような体制をとっているのか、今後どんなふうにしていきたいか。

実施団体 イベントを良くするために運営メンバーで何度も話し合い、体験ものは1回やってみるなど、参加者に楽しんでもらえるかを大切にしている。

長田委員 素敵写真なので、発表で映す際にもう少し大きく見やすくしてもらいたい。

所管課 発表を聴いて熱意があると感じた。運営側のバランスも良く、コアメンバーや当日だけの手伝い等、2階層式の活動になってきている。今日報告のあった以外の活動を見ても、人材コーディネートのような役割もあると思っている。今後も川崎市区の歴史文化を発信するとともに、人材コーディネートについても今後期待している。

佐谷委員長 当日キャンセルが多いが、理由はあるか。

実施団体 イベント実施日が外出を控えるほどの酷暑であったり、インフルエンザが流行ってしまったのが原因と思われる。

鈴木委員 希少価値が高く、いきいきの事業で進めていくのに適している。今回2年目だ

が、これで事業としては終わりか。

実施団体 SDCの助成金を活用して、引き続き続けていく。

|      |                        |
|------|------------------------|
| 報告4  | かわさきグローバルアカデミー第一期モデル事業 |
| 実施団体 | 一般社団法人グローバル文化協働支援センター  |
| 所管課  | 生涯学習支援課                |

**質疑等**

- 鈴木委員 公演等について、聴くだけではなく、ワークシートを使用した意図は。
- 実施団体 頭の中にインアウトして、成長してもらいたい。意見を書くことでより一生懸命聴いてもらえる。
- 鈴木委員 魅力的に感じた。書き出した内容を共有する場は設けたか。
- 実施団体 発表する場を設けた。
- 長田委員 提案事業を使ったメリットや、やりづらいつと感じたことはあるか。
- 実施団体 今までで今回が一番良かった。教育文化会館は古い建物なので暖房がうまく作動しないことなどあったが所管課の職員のフォローもあり、活用できた。
- 佐谷委員長 学童交流事務について80回やって1回の平均が15名とのことだが、参加者の合計数はどれくらいか。(同一人物が2回来ても1カウント)
- 実施団体 50名ほど
- 傍聴者 子ども文化センターでウェブでの講座をお願いしたい。
- 実施団体 対応は可能。
- 所管課 所管課としても参加している子どもたちの成長を見守っていくのが楽しみ。今後もイベントがあるので、引き続き頑張ってください。
- 石井委員 これまでの経験を活かし、幅広いターゲットを対象に行っており、素晴らしい取り組みであると感じた。また、ボランティア希望者を増やすという目的や、区と活動団体の協働事業の取り組みなど、市民主体のまちづくりを目指す区の方向性に合致している。区として特に力を入れている多文化共生社会の実現についても、外国籍の子が小さいうちから日本の子どもたちと学んでいくことは大切である。ゴミの出し方ひとつでも難しい状況があるため、繋がりを通してまちのルールを覚えていくことができる。初年度として多方面のことに取り組んでおり、区の取り組みに合っているので、引き続き継続してもらいたい。

|      |           |
|------|-----------|
| 報告5  | 防災マルシェ    |
| 実施団体 | いきがい工房さらら |
| 所管課  | 危機管理担当    |

**質疑等**

- 石井委員 外国籍の人への広報が課題と言っていたが、イベントには来たか。
- 実施団体 来ている。
- 石井委員 参加の呼びかけは難しいと思うが、区の危機管理に相談していただきたい。
- 次年度も続けられるか
- 実施団体 続ける。
- 鈴木委員 イベントの会場が社会福祉法人の施設だが、施設と連携し何か新しい知見は得られたか
- 実施団体 各施設で完結する考え方や対応はあったが、地域全体としてという考えはなかった。ただ、今回の活動をきっかけにいろんな目的の人がいて、その人たちのことを知ってから、何をしていくか考える企画づくりを提案したいと感じた。
- 鈴木委員 入居施設の場合はその施設内で完結していて、小学校の避難所運営など、地域との繋がりが無いということがわかった。
- 今回、避難所運営の機会や課題認識を得られたと思うので、来年度のさらなる飛躍を期待する。
- 所管課 防災マルシェを通して少数派の人のことを考える機会や、疑似体験を通して実際のイメージを持つことが出来た。
- 年2回行っている総合防災訓練にも外国籍の人の参加が少しずつだが、増えてきている。区として今後も区内の施設等と連携して防災啓発に取り組んでいく。
- 長田委員 まずはやってみようということで取り組まれたもので、エキスパートの養成まで至らない等、1年だけでは難しかったかもしれないが、着実に前に進んでいる。
- 広報の難しさについて、他の団体も共通しての課題だと思う。所管課と連携しながら、引き続き考えてもらいたい。

### 3 閉会

#### 総括講評

- 佐谷委員長 今回の令和7年度いきいきかわさき区提案事業では、5団体全てが「子ども」をテーマとして取り組まれたことが特徴。子どもを対象とした活動は、行動範囲や誘致圏などの制約もあり、集客面でも難しさがあるが、その中でも工夫を重ねて取り組まれている。また、集客数だけを目的とするのではなく、「何のためにこの事業を行うのか」という軸を大切にしながら、事業規模や内容を真剣に検討されていた点も印象的であった。さらに、区の職員のコメ

ントから、団体と区役所が“ともに事業をつくっていく”という姿勢が、これまで以上に強く感じられた。協働事業として、とても良い関係性が築かれてきていると思う。残りの期間、そして来年度以降も、ぜひ素晴らしい事業づくりを続けてほしい。